

仙台・文化財サポーター会活動記録（保存継承部会）

○テーマ

仙台のダークな伝承を探るシリーズ。今回は「山家清兵衛と和霊神社」にスポットを当て、その縁の場所を訪ねます。

○進め方

4月部会では「山家清兵衛と和霊神社」について菊地さんからレチャーを受け、②それを踏まえた「和霊神社」巡見は、「街中」と「台原」にエリアが分かれることから、5月と6月の2回に分けて実施することにしました。

○4月は座学、「山家清兵衛と和霊神社」について学びました。

わかったことは、

①宇和島市の和霊神社

●伊達政宗の長男伊達秀宗は慶長19年(1614)政宗に従い大坂冬の陣に参戦。その恩賞として2代将軍徳川秀忠より伊予宇和郡10万石を拝領。

●政宗は家老として山家清兵衛公頼(やんべせいべえきんより)に惣奉行を命じる。元和元年(1615)春、伊達秀宗主従が宇和島城に入場。

●当時疲弊していた藩政は忠誠無比の清兵衛公の忠勤により大いに刷新され領民から敬慕されました。しかしこの事は政敵を作る事となり元和6年(1620)6月29日凶刃に倒れることとなります。

●その後、清兵衛公の政敵だった者や暗殺に関与した者、秀宗自身等、藩内に凶事が続き、2代藩主伊達宗利により清兵衛公の意誠に応え御霊を慰めるために承応2年(1653)山頼和霊神社(やまよりにぎたまじんじゃ)として社殿が建立されます。

●この「怨霊を鎮める神社」という性格により、和霊神社(和らげる霊)という名になっています。民衆に広く信仰され7月23日・24日の和霊大祭は現在も盛んに行われています。

○宇和島城



○宇和島和靈神社

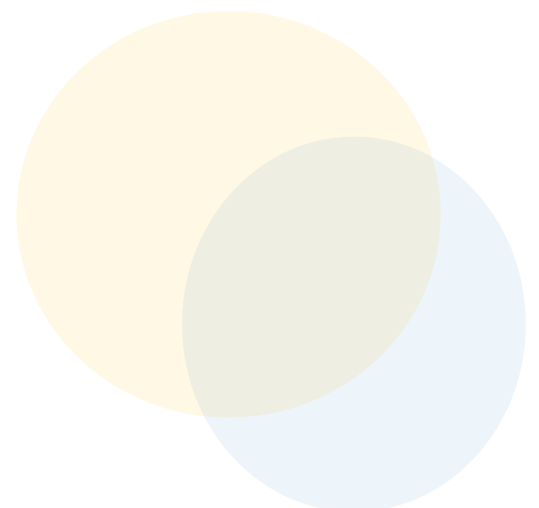


○山家清兵衛公頼肖像画（宇和島和靈神社所蔵）



②山家豊三郎頼道と東一番丁

- 山家豊三郎は、初代山家清兵衛公頼が仙台に残した2代長男山家喜兵衛の10代目子孫。豊三郎が居住していた仙台城下の東一番丁は数百石程度の中級武士たちが居住し閑静な町でした。
- しかし、仙台藩が成辰戦争で敗北したことにより武士たちは職を失い生活が困窮。
- 明治2年(1869)豊三郎は屋敷の一部に小店舗十数戸を建設して商売希望者に賃し出した。様々な商売を営む者が集まるようになり『山家横丁』と呼ばれるようになりました。
- さらに屋敷内の宇和島和霊神社から分霊した『山家明神』を一般に解放し、盛んに祭りを催し、夜見世をだして人を集めました。
- 明治16年(1883)山家家の屋敷を東一番丁から東二番丁と立町通り角に移転した時に、『山家明神』から『和霊神社』と改め遷座されました。
- 昭和20年(1945)7月9日の深夜から10日の未明にかけての仙台空襲により和霊神社は石像の狛犬2体を残して全て焼け落ちました。また昭和20年(1945)5月10日に宇和島大空襲があり、その際宇和島和霊神社も全て焼け落ちています。
- 昭和48年(1973)和霊神社は山家家の移転とともに三度、台原5丁目に遷座する事になります。現在山家家14代山家守雄氏が守られており、仙台空襲にて見つけ出された2体の狛犬は現在も守護のお役目をされています。
- 昭和52年(1977)一番丁一番街商店街からさらなる活性化の祈願と街の守護神としたいとの地域の願いにより仙台フォーラスの屋上に台原和霊神社より分霊・鎮座されましたが、仙台フォーラスの長期休業により参拝が困難になったために令和8年(2026)3月6日一番町3丁目に移設され、遷座祭を執り行い星上から地上へ遷宮されました。
- このように和霊神社は山家清兵衛公頼の御霊を和らげる目的で建立されましたが、現在では商売繁盛、街や地域の守護、商店街の発展の神様として深く信仰されています。



○5月部会

日時：5月15日（金）10時30分

仙台フォーラス前集合、和霊神社だけでは勿体ないので、和霊神社→野中神社→藤崎えびす神社の順に「一番町三社祭り」の三社を合わせて巡り12時に解散。

○参加者 15名

まず、本来の目的である移転された「和霊神社」に参拝

令和8年3月6日

組合員の皆様へ

和 霊 神 社

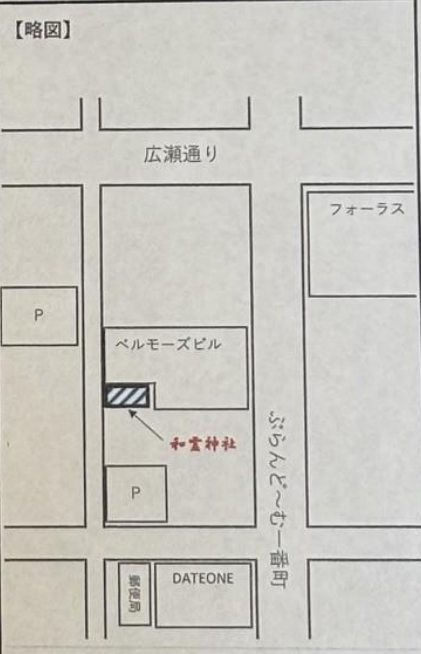
「新社殿完成と移転のご案内」

日頃より商店街運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、和霊神社は仙台フォーラスの休業に伴い、下記の通り新敷地へ移転いたしました。

【新所在地】

仙台市青葉区一番町3丁目10番地54



引き続き、商店街の守り神としてご参拝いただければ幸いです。

一番町一番街商店街振興組合
TEL 265-5146

和霊神社の由来

本社の祭神は伊予守和島伊達藩祖秀宗の忠臣山家清兵衛公頼公である。

清兵衛公は、三百五十余年前仙台湾祖政宗の長子秀宗が元和六年宇和島十万石に分封された際その家老職として随行した。当時藩内は旧領主の悪政に疲弊し惨澹たる状態であった。忠誠無比の清兵衛公はよく藩主を補佐して藩政は大いに刷新民政も安定藩内挙げて新藩主を称せるとともに清兵衛公の徳望も上り光彩を放った。

しかし、このことは却って一部藩士の妬むところとなり元和六年一味の兇刃に斃れたが、藩主は公の忠誠に應え承応三年山頼和霊神社として奉祀したものである。

産業興隆の守護神ともされ毎年七月二十三日二十四日の大祭は各地より参詣者をおよめ和霊さまと称して宇和島あげての祭りとなっている。

本社はその分霊で初め東一番町山家一族の子孫山家豊三郎邸内にあり明治初年これを一般に開放数戸の店舗を造り商家を誘致時々祭礼を催したので見世物露店等が現れ現在の商店街形成の緒を作った。一番街商店街の一層の発展を願ひ一番街有志相計り建立したものである。

一番町一番街商店街振興組合



○野中神社

青葉通から南二本目の西横丁に野中神社があります。慶長六年（1601）仙台城下建設に当って、町割の縄張りに使った縄を集めて土中に埋めその上に野中神社を祀ったと伝えられています。今日では縄に因んで、縁結び並びに商売繁昌の神として崇拝されています。



野中神社アクセスMAP



サンモール一番町商店街振興組合

仙台市青葉区一番町2丁目5-5 東中央ビル4F
TEL 022-227-4851

野中神社

縁結び・商売繁盛





野中神社の歴史

慶長5年（1600年）関ヶ原の戦いで功により新たに刈田郡を増された伊達政宗公は、城を岩山から千代（せんだい）に移すことになりました。この年の12月24日政宗公は青葉ヶ崎に登って築城の縄張りをおこない、「千代」の地名を「仙臺」に改めました。今から約400年前、政宗公が34歳の時のことです。

かくして、あくる慶長6年（1601年）正月11日を吉辰として縄張始の式をあげ、あらかじめ設計された絵図に従って町割が進められ1月末には完了しました。また城普請と城下建設の工事も同時に始められました。

家臣と町人が岩出山から仙台に移ったのは慶長6年とも7年とも言われますが、その時の仙台の戸数は一万8百、人口5万2千と全国屈指の大城下町と呼べる都市でした。

野中神社のあるところは城下建設にあたって、政宗公が城下の中心点と定めたところであると言われ、町割の縄張りに使った縄を集めて土中に埋め、その上に野中神社を祀ったと言い伝えられています。旧暦6月24日が祭礼とされ仙台の夏祭りのひとつでしたが、今は三社まつりとして毎年7月下旬に一番町をあげての盛大なお祭りが行われています。

現在の社殿は昭和63年に再建したもので、縄にちなんで縁結びと商売繁盛の神として崇拝されています。

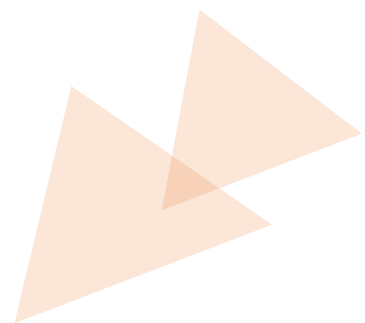


○えびす神社

藤崎デパートの屋上にえびす神社があります。

藤崎は文政2年(1819)大町に呉服商として創業したのが始まりで、屋号をエビス屋と称したので○にエの字を配し、至誠一貫の意を表す横棒を入れて店印としています。

恵比須は商売繁昌・航海安全・漁業の守り神で、財宝を恵む神として七福神の一つです。

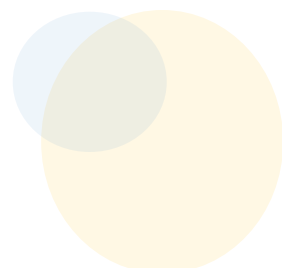






藤崎えびす神社由来（上記掲示内容を転記）

『藤崎えびす神社は、兵庫県西宮市に鎮座いたします西宮神社が総本社でございます。西宮市は古来銘酒の産地として名高く、その中心部に西宮神社が鎮座いたしておりますが、「西宮のおえびすさん」として全国津々浦々の人々に崇敬されてまいりました。御鎮座された年代は明らかではありませんが、平安朝の末期に高倉上皇の御奏幣、さらに戦国時代に入って社殿御造営に際し後奈良天皇の御寄進があったという忠実などから当時既に社勢が盛大であった様子が伺われます。中世以降、えびす様を福の神、商いの神として崇める信仰が盛んになり、今日では「商売繁昌、除災招福」の守護神として珠に商家の信仰を集め、西宮神社がえびす様の総本社として有名となりました。藤崎百貨店は、文政2年（1819）呉服商として創業いたしました。当時屋号を得可主屋（えびす屋）と称しておりましたので、当時から商いの神様おえびすさんをお店の氏神様として崇めておりました。昭和七年に本格的なデパート店舗の建設を機会に店舗屋上に奉斎いたしまして今日に至っているものでございます。』



○青葉まつり、藤崎山鉾にも恵比寿さまが祀られています



○最後に

青葉まつりの山鉾巡行をみてましたら、こんな囃し言葉が耳に止まりました！

「♪♪伊達～の城下は皆繁盛♪♪」

山家清兵衛と和霊神社が、この繁栄の一翼を担っていることでしょう！

さて来月6月は台原の和霊神社を訪ねます。2体の狛犬にお目にかかるのも楽しみです。

なお、山家清兵衛の政敵桜田玄蕃元親の甲冑が現在仙台市博物館の常設展に展示されています。私も見てきましたがご興味のある方はご覧ください。

以上 本多正明（記）

（参考資料）

・「和霊神社の由来」一番町ものがたり

（制作 一番町商店街振興組合）